

# 本音の コラム



モハメド・エリリアン

氏は、独大手保険会社アリアンツの首席経済顧問。一時は連邦準備制度理事会の副議長候補の一人とも報じられていた。

同氏が二〇一六年に

『THE ONLY GAME

IN TOWN』(邦訳は『世界経済

危険な明日』)を上梓す

ると、欧米の有力なセン

トラルバンカー達のスピ

ーチのあちこちで、この

タイトルが引用された。

〇八年の金融危機以降の

主要な中央銀行の異例の

金融政策運営の含意や行

く末を鋭く分析できる数

少ない民間エコノミスト

で、当局者達からも一目

置かれていたのだろう。

エリリアン氏がこの著

河村小百合

## T字路

書のなかで提示するのが「T字路」。今、世界経済は金融危機以降の中央銀行の異例の金融政策運営による道をたどるが、まもなく事実上の行き止まりにぶつかると。その先は世界が大幅に良くなるか悪くなるかという分かれ道で、どうなるかはまだ不明。良い道では包括的な経済成長が実現するが、悪い道では成長率は低下し、格差も拡大。金融は不安定化し政治的な過激主義が強まるという。

今、欧米中銀は正常化を着々と進める。この先には「T字路」が待ち構えていることを十分に認識しているからだろう。ところが日銀が先月末に打ち出した「修正」は小手先の弥縫策止まり。このまま突き進めば、この国が「T字路」に突き当たることになる。(日本総研上席主任研究員)

2018.8.9

